令和6年度　江戸川区立上一色中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	ー　自ら学ぶ生徒 ー　心身を鍛える生徒 ー　社会をつくる生徒		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・保護者、地域と連携し、信頼され豊かな教育活動を展開する学校 ・自律し、国家・社会の一員としての自覚と貢献する気持ちをもった生徒 ・熱意をもって職務に専念し、確実な学力に向け豊かな教育活動を展開する教師
前年度までの本校の現状	成果	①学力向上に向け、ICT機器を利用し、対話的な授業への取組が増加した。 ②道徳教育については、議論・対話する特別な教科　道徳の授業が定着してきた。	課題	①学力向上に向けての取組の充実を目指す。 ②特別支援教育の充実を目指す。 ③読書科でＩＣＴや学校図書館の活用による探究学習の充実を目指す。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、単元テスト・家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・研究授業、協議会での主体的・対話的で深い学びの研修を行う。	・生徒が、授業アンケートで授業がわかる、達成感の感じられるという肯定的な回答を８割以上得る。											
		・放課後補習授業を計画的に実施し、数学・英語の基礎力の向上を図る。	・補習授業を行う数学・英語のBC層の割合を向上する。											
	○読書科の更なる充実	・読書科の成果物作成と、計画的な読書科の取組を行う。探究的な学習の良さを理解させ、問題を解決してふさわしい発表を経験させる。	・３年生は卒業研究を完成させ、１・２年生は学校図書館での調べ学習を２回以上実施する。											
体力の向上	○運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・体育授業前の上中トレ-ニング（5分）を実施する。	・体育授業前の上中トレ-ニングを毎時間実施する。											
		・運動が楽しいと思えるように、レクレーション的な取り組みを行う。	・レクレーション活動を学期に１回以上行う。											
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・教室の整理整頓、配布プリントや投影画像の文字のUD化を行う。	・各学期２回の教室の整理整頓、掲示物チェックを実施する。											
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの活用、ステップサポーターを活用し、毎日支援できる体制を整える。	・エンカレッジルームの柔軟な活用を行い、毎日の支援体制を実施する。											
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・副籍では、直接交流や間接交流を行い、共生社会の理解を深める。	・副籍交流では、鹿本学園との関りを通して、年間３回以上の交流を実施する。											

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
不登校・いじめ対応の充実	○いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実	・学校生活全体でいじめの未然防止。個に応じた対応を行う。いじめ防止基本法に基づき職員全体で共通理解を図る。	・アンケートを各学期実施していじめの早期発見・事前防止に取り組む。組織的解決を目指す。											
	○不登校対策の実施・充実させ、教育相談の強化	・特別支援コーディネーターや特別支援教室専門員が中心に情報共有や共通理解を図り、全校体制で組織的な対応ができるように整える。	・特別支援校内委員会を２か月に１回以上行い、組織的に対応ができるように、支援体制を実施する。											
	○hyper-QUの活用	・１・２学期に１度ずつhyper-QUを全学年で実施する。	・ハイパーQUを年２回行い、学級や学年で活用する。また、ｈｙper-ＱＵ研修会を行い、教員の知識活用を深める。											
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○学校（園）ホームページの充実し、学校（園）公開の実施・充実	・地域、家庭に定期的にＨＰやtetoruで通知する。	・ＨＰの更新は、学年や分掌のＨＰ担当者が週１回以上行う。											
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会で地域から見た学校の意見を集約・確認し、充実・改善に取り組む。	・学校評議員会で年２回アンケートを行う。											
	○保護者との信頼関係の構築	・三者面談で三者が納得できる面談の実施を年２回行う。	・学校生活について保護者アンケ-トで肯定的な回答を８割以上得る。											
特色ある教育の展開	○「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・校務分掌の見直しを図り、仕事内容の精選を行う。定時退勤を促し、在校時間を見直す。	・校務分掌の見直し仕事の精選を行い、教員の平均在校時間を前年度よりも１０分減らす。											
	○「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・「小中連携教育構想」に基づく取組の実施。	児童の授業体験、部活動交流を年２回実施する。											
	○自分の考えをもち議論する道徳授業、いじめ防止基本法に基づく授業を実施	・道徳授業の研究授業を各学年、年１回取り組む。	・「いじめ防止」に向けた授業を各学期１回ずつ実施する。											